

ヤーンバスケット / Yarn Basket

ユカ タケウチ / Takeuchi Yuka

とても驚きました！日本でブルーノ・タウトが工芸デザインを行い、タウト作品として知られているということに。というのも、オランダの大学ではブルーノ・タウトは20世紀の著名な都市計画家および建築家として、大規模なもの・巨大なものに対して広範な考え方を持った人物として学んでいるからです。このような都市計画・建築・美術史を学んだ建築家が、フォークヤーンバスケットのような小さなものをデザインすることができるのでしょうか？

こうした当初の思い込みは見当違いで、私はこのヤーンバスケットに魅了されました。なぜならば、一つには、そこに日本の様式とヨーロッパの様式、そして、タウトスタイルが織り交ぜられた様子が見えと見て取れるからです。とはいえ、私には他のタウトの作品からは、それを強く感じることはできませんでした。このバスケットのように小さくてかわいらしいものからは、日本という感覚を思い起こさせます。したがって、タウトは何かしら日本の雰囲気デザインできたことを見せてくれたのです。

竹皮を使うことで、日本の性質がより強く醸し出されます。なぜならば、ヨーロッパでは竹が自生しないからです。他方でタウトは、ヨーロッパの様式をバスケットのデザインの中に統合していました。幾何学的な形、そして、その造形はまさにタウトのスタイルです。タウト建築のデザインは、例えば鉄の記念塔のパビリオン建築が八角形で左右対称だったように、このヤーンバスケットにも当てはまります。

もう一つ私を印象付けたのは、通常、竹皮編みは竹皮のみで編まれるようですが、タウトがそこに建築の複雑な知識を用いていたことです。バスケットは小さいパビリオン建築のように、壁の中に柱があります。梁は屋根の中、そして、上から下までの層の中にあります。したがって、バスケットはガラスパビリオンや鉄の記念塔のパビリオン建築のような、タウトの著名なデザインの小さな日本版のようです。ガラスパビリオンは、機能と美しさといった相反する要素を持っています。タウトはおそらくこのバスケットの中で、機能と美、日本とヨーロッパの相反するものをデザインのコンセプトとしていました。相反するものの考え方はデザインを統合するために必要なものとして示されており、これは、タウトの理論の中で重要でした。

タウトが小さなもののデザインを行っていたことに驚かされただけでなく、バスケットの蓋をとってみると、さらに驚嘆することがありました。その黄色い内部からは、タウトの遊び心が感じられます。当然なことですが。カラーはタウトの特徴です。タウトは画家であり、パステルを使う美術家であり、沢山の色を建築に使いました。タウトは周囲を取り巻く自然に対する感謝、そして、ほほえみを運ぶものとしてカラーを用いました。ほほえみからも、これはタウトの作品だと感じる事ができました。

What a surprise! Bruno Taut did craft and product design and he is known for his craft in Japan. In the university in the Netherlands, I got to know Bruno Taut as a well-known architect and urban planner of the early 20th century; big scales, big objects and big thinking. Can an architect who had studied urban planning, architecture and art history, design small-scale objects, such as a fork and a yarn basket?

I am fascinated by this yarn basket. I clearly see an interweave between Japanese style, European style and Taut's style. I haven't been able to feel that strongly with the other Taut's crafts. The thought of cute or small, like this basket, reminds me more of Japanese sense. Taut showed that he could design something with a Japanese touch. By using Takekawa, the Japanese character blooms even more. Especially, Europe is not a natural home of bamboo. Taut integrated his European style further in the basket design. The geometric shape and how it is constructed are more the style of Taut. His architecture design, the Steel Industry Pavilion is octagonal and symmetrical, just like this Yarn basket. What also struck me, I normally see Takekawa woven together into 1 net in Japanese crafts, but Taut used his architectural knowledge. The basket is like a small pavilion with columns in the walls, beams in the roof and layers from bottom to top. It resembles a small Japanese pavilion version of his well-known designs, the Glass Pavilion and the Steel Industry Pavilion.

The Glass Pavilion had antagonistic elements: function and beauty. Taut probably used his design concept, dualism between function and beauty, and between Japanese and European, in that basket too. The signs of dualistic way of thinking were predominant in Taut's theoretical works that indicated the necessity of the unity of all in design.

Not only did Taut surprise me that he could create small-scale design, but what a surprise, did you remove the lid from the basket? A yellow and cheerful smoke from Taut rises up from the basket. Inevitably, coloring is the hallmark of Taut. Taut was a painter and pastel artist and used a lot of color in his architecture. He used colors in architecture to bring up cheerfulness and to appreciate the nature. With a smile I thought about Taut.

